

もくじ

- 会長挨拶「会長就任にあたって」

EWE 会長 堀越 佳治

- 2017 年度 総会報告

- EWE ホームカミングデー開催のお知らせ

- 新任教員挨拶

情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 内田 真人

- キャンパスライフ

電子物理システム学専攻 田島 咲季

- 地方本部だより

東海地方本部

- クラス会だより

電気通信科 1962(昭 37) 年卒

会長挨拶

会長就任にあたって

早稲田電気工学会
会長 堀越 佳治



このたび2017年度 EWE早稲田電気工学会会長のご指名をいただきました。当会は1912年に早稲田大学電気工学科の最初の学生が卒業したときに設立されたようで、そうしますと今年は設立105周年ということになります。設立以降、関係する学科・専攻も増え、現在は4学科4専攻にまたがる大きな組織になっています。このように歴史ある、かつ大所帯のEWEの会長を拝命し、大変光栄に感じると共に責任の重さを感じているところです。これまで歴代の会長および関係者のみなさんのご努力により、EWE規則が整備され、会の運営指針が明

確に示されるようになっていきます。しかし昨年度一年会長代理として会の運営に関わってまいりましたが、この一年はEWEの活性を維持しかつ発展させるためには、執行部・事務局をはじめ関係者の並々ならぬ努力が必要であることを痛感した一年でもありました。

会長の指名をいただき、EWEの役割をあらためて考えてみました。と言いますのも、実を言えば私はこれまで同窓会活動にあまり熱心ではなかったからです。そういう人は大勢居られると思います。このため卒業してしまうと同窓の同級生や先輩、後輩とはつい没交渉になってしまいます。しかしこういう人々が本当はそれぞれの人のとって大変貴重な財産であることを思い起こしてみましよう。同窓の方の助けによって問題が解決したり、仕事の幅が広がったり、研究が実を結んだというような話は良く耳にするところです。したがってEWEの役割は、会員相互の親睦を図るとともに、会員それぞれが必要なネットワークを作る手助けをし、会員の日常の仕事や社会貢献を容易にするような環境づくりをすることにあると思われまふ。そのような考えのもと、昨年度は初めてEWEホームカミングデーを実施しました。しかし対象を卒業後10年としたため、出席者数は十分に伸びませんでした。本年度はこの結果を踏まえ、異なる卒業年度の会員が集えるような形にしたいと考えています。このほかにも会員間のネットワーク形成を助ける手立てがあれば積極的に実施したいと思ひます。さて私は2014年3月に早稲田大学を定年退職しました。現役時代はそれなりに忙しく、手間のかかる仕事は敬遠してしまうことが多かったのですが、これから時間は十分にあり、何でもできるぞという気分です。定年後の人生をスタートしております。これまで電気工学という社会インフラに関わる分野で仕事をしてきた者として、やはりこ

の分野で少しでも社会に貢献したいと考えてきました。実は定年直前の5年間、文科省の研究プロジェクト(CREST)に採用していただき、“太陽電池の高効率化”に関する研究を進めて参りました。研究を進めるに当たり、太陽電池の効能を自分自身で実際に体験するため、自宅にSi単結晶パネルを設置し、その効果を具に見てまいりました。この過程で太陽光発電の素晴らしさと有効性を認識し、太陽光発電普及の必要性を痛感しました。これは化石燃料消費の低減につながる、ひいては地球温暖化現象の緩和につながる価値ある社会貢献と考え、地域にNPOを設立して現在太陽光発電の普及の活動を進めています。

ところで日本の年間発電量(消費量)はここ数年1兆kWh前後で推移しています。2013年における世界全体の発電量は約20兆kWhですので、その約5%に相当します。発電に投入された一次エネルギーの構成は、2011年の震災以前は、天然ガス、石炭、石油など化石燃料64%、原子力26%、水力およびその他の再生可能エネルギー10%でしたが、震災以降の2013年には原子力発電停止による不足分を化石燃料で賄ったため、構成は化石燃料90%、水力など再生可能エネルギー10%となっています。原子力発電の穴埋めとしてCO₂排出量の少ない天然ガスが用いられましたが、これではCOP21におけるCO₂排出量の削減目標達成はとても困難です。ここは再生可能エネルギーの劇的な増加によって解決するのが最も賢い方法と思われる。再生可能エネルギーとしては水力、太陽光、太陽熱、風力、地熱、バイオマスなどがありますが、最も重要なものはエネルギーが豊富で環境への影響が少ない太陽光発電です。経産省の2030年における電力供給のエネルギーミックス予測では、再生可能エネルギーは約23%で現状の2倍強になっています。このうち太陽光発電は7%程度(700億kWh)ですが、それでも現状に比べれば大幅に増加しています。しかしこの値は大手電力10社の太陽光発電の受け入れ可能量を積み上げたもので、おもに送電能力を考慮した数字です。メガソーラーなど大規模な発電設備が念頭にあるものと考えられます。実際はさらに大幅な増加が必要ですが、この壁の克服は容易ではありません。しかし太陽光発電の本当の利用価値は、その設置条件が緩く、設備規模が自由という観点から、個人住宅や地域など、地産地消、あるいは自産自消を目指した規模の小さい発電設備にあると考えられます。この場合送電能力は制限要因にはなりません。5kW程度の小規模な太陽光発電設備を個人住宅に設置すれば、真夏の日中にエアコンを使用してもなお有り余る電力を生産することができます。このような設備が普及すれば夏季のピーク電力を大幅に下げることができ、化石燃料の消費低減が期待できます。もちろん現在も多くの住宅で太陽光発電が利用されていますが、問題はその総数がきわめて小さいことです。設置してみれば多くの人がその効果に満足するはずですが、初期投資の大きさゆえに二の足を踏んでしまいます。しかしこのような小規模太陽光発電は、個人や小グループでも参画可能で、普及すれば環境問題に対する寄与は計り知れません。EWE会員の皆さんにもぜひチャレンジしていただきたいと思います。

2017年度 総会報告

2017年度定時評議員会・通常総会が、2017年5月19日(金) 18時より開催され、下記の議案が承認されました。

出席者は63名で例年より多くの会員に参加いただきました。

《 次 第 》

司会： 中島 裕昭 理事

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 会長挨拶 | 花澤 隆 会長 |
| 2. 定時評議員会の議題 | 花澤 隆 会長 |
| (1) 評議員の委嘱 | 花澤 隆 会長 |
| (2) 2016年度事業経過報告 | 渡邊 亮 副会長 (事業) |
| (3) 2016年度収支決算報告 | 中津川征士 副会長 (会計) |
| (4) 2016年度会計監査報告 | 川原田 洋 監事 |
| (5) 2017年度事業計画案 | 渡邊 亮 副会長 (事業) |
| (6) 2017年度収支予算 | 中津川征士 副会長 (会計) |
| (7) 早稲田電気工学会規則の一部改正 | 花澤 隆 会長 |
| (8) 役員等の選任について | 花澤 隆 会長 |
| 3. 通常総会の議題 | |
| (1) 評議員会の審議事項の承認 | 花澤 隆 会長 |
| (2) EWE 学生部会報告 | 富岡 太一 学生委員長 |
| (3) EWE 活性化委員会報告 | 三木 博之 活性化委員長 |
| (4) EWE 三月会活動報告 | 高垣 孝 三月会幹事 |
| (5) 新会長挨拶 | 堀越 佳治 新会長 |
| (6) 新会長代理挨拶 | 横井 亮介 新会長代理 |

終了後、会場を第一会議室/竹内ラウンジに移し、中川哲也副会長の司会で懇親会が行われました。乾杯の音頭は、参加者の中で最年長の野原和夫氏(1951電)にお願いしました。懇親会も50名ほどの参加があり、中島理事の一本締めで盛況のうちに閉会しました。

2017 年度 総会・懇親会の様子



花澤隆会長



堀越佳治新会長



横井亮介新会長代理



乾杯：野原和夫氏



2017 年度 EWE ホームカミングデーのご案内

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃からEWEの活動にご理解・ご協力を賜り、御礼申し上げます。

さて、EWEでは、卒業生の皆様の交流を一層深める企画として、昨年度に続き下記の通りEWEホームカミングデーを開催いたします。昨年度は、卒業後10年目を迎える卒業生の皆様を対象に実施いたしましたが、参加者や他のEWE会員から、卒業年次を超えた交流を希望する声が寄せられました。

そこで第二回目にあたる本年度は、対象卒業年次の幅を広げ、卒業後10年までのすべての年次の卒業生（2008年～2017年3月卒）を対象にいたします。さらに本年度は在學生にも参加していただき、とくに在學生の数人にはポスターによる研究紹介をお願いしています。研究室の現在の活動を通じ、親睦・議論の輪を広げて頂ければと思います。

夕刻の早い時間帯にキャンパスにお集まりいただき、年次、研究室の枠を超えて旧交を温めていただけるよう、簡単なお飲み物と軽食を準備いたします。またこのEWEホームカミングデーの集いを気軽な一次会と位置付けていただき、その後に先生方を囲みでの同窓会を各研究室単位で企画いただくなど、共に青春を謳歌した同窓の友との再会の契機としていただければと考えております。また幅広い卒業年次の会員の集いを通じ、このホームカミングデーが新たなネットワーク作りのきっかけになってくれれば嬉しい限りです。

中庭がリニューアルされるなど、キャンパスも様変わりしています。

是非、皆様お誘い合わせの上、ご来会くださいますようお願い申し上げます。

敬具

平成28年8月吉日

EWE 会長 堀越佳治

記

1. 本年度お集まりいただく方々：

- ・2008年～2017年3月までに学部を卒業、大学院(修士、博士)を修了されたOB・OG
- ・在學生(EWE 学生会員)

2. 日時 2017年10月7日(土) 16:00～18:00 (受付開始:15:30)

会場 早稲田大学 西早稲田キャンパス 63号館1階ロームスクエア

<http://www.waseda.jp/fsci/access/>

3. 会費 2,000円(当日お持ちください)

※簡単なお飲み物と軽食を準備いたします

4. 参加を希望される方は、ホームページより <http://www.ewe.or.jp/> 9月20日までにお申し込みください

以上



EWE ホームカミングデー
2016 年度風景



新任教員挨拶



情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授
内田 真人

2017年4月に基幹理工学部・情報理工学科に着任致しました。どうぞよろしくお願い致します。私は北海道札幌市で生まれ育ち、出身は北海道大学です。早稲田大学の卒業生ではないのですが、この度、ご縁に恵まれ、長い歴史と伝統のある早稲田大学の一員となることができたことを大変嬉しく、また光栄に思っております。この原稿を書いているのは6月初旬で、早いもので着任から2か月が経ちましたが、この間、基幹理工学部・情報理工学科の諸先生方をはじめ、多くの教職員の方々に温かいご支援とご協力を頂いたことに、この場をお借りして深くお礼を申し上げたいと思います。皆様方のご助力により、快適に日々の仕事をさせて頂いております。誠にありがとうございます。

私は、大学院修士課程を修了後は、NTT研究所、九州工業大学、千葉工業大学に勤務し、ネットワーク技術やデータ分析技術、あるいはそれらの境界領域に関する研究に取り組んできました。特に、様々な情報ネットワークシステムの性能評価に関する諸問題について、機械学習、情報理論、統計数理に基づいたアプローチによる研究に取り組んできました。情報化社会の著しい進展に伴い、社会の各領域において情報システムを総合的にデザインし、その安全性や信頼性を向上させることが重要となっています。私が専門とするネットワーク技術やデータ分析技術は、このような要求に応えるための有力な武器になるものと考えております。今後は、早稲田大学の学生さんと切磋琢磨しながら、こうした技術に関する高い水準の研究成果を創出していきたいと考えております。また、その研究を通じて、時流の変化にも柔軟に対応できる優秀な人材を育成・輩出できるよう、努力をして参りたいと考えております。

至らぬ点が多々あろうかと存じますが、今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

<略歴> 北大院工学研究科修士課程修了 (2001.3) / NTT研究所 (2001.4~2005.7) / 九州工大・ネットワークデザイン研究センター・助教授 (2005.8~2007.3), 准教授 (2007.4~2012.3) / 千葉工大・工学部・准教授 (2012.4~2015.3), 教授 (2015.4~)。総務省・情報通信審議会、同・情報通信行政・郵政行政審議会、同・電話網移行円滑化委員会、同・将来のネットワークインフラに関する研究会等の構成員、JPNIC (日本ネットワークインフォメーションセンター) の評議委員等を歴任。

キャンパスライフ

助手からみたキャンパスライフ

電子物理システム学科 助手
田島 咲季（柳澤・史研究室）

助手のお話を頂いたときの一番初めに出た正直な感想は「助手になれるチャンスなんて、あと三回生まれ変わってもないかもしれない。」でした。人生は長いようで短い、迷っている時間なんてない、ということで助手の道を選びました。

日々の生活は自分の研究・授業だけでなく、助手の業務も行う必要があります。助手としての業務は、日々の学部生の実験や、学校行事ごとの手伝いがあります。今までは同期又は1つか2つ離れた人や先生方と話す機会が圧倒的に多く、大勢の5つ以上も年下を相手にする機会はありませんでした。年齢が異なると自分の思っている”あたりまえ”が違うことは多々あり、特に前に立つ実験の指導は苦戦しました。興味のあるテーマが大体同じ人が集まる研究室とは異なるため、いかに話を聞いてもらえるか・実験を楽しんでもらえるかを考えるのは難しくも楽しく、実験の度に一つずつ自分がレベルアップしていくようでした。

自身の研究は学士・修士時代と同じ、耐性ソフトウェアというテーマを続けて研究しています。ソフトウェアとは回路上で発生する放射線起因のエラーであり、特に放射線の影響が大きい宇宙・航空機分野においては人命に関わる重大な問題です。これに、近年のトレンドである低電力・高速化を両立した信頼性回路の研究を行っています。長期的な研究が可能となったため、同じテーマ内で今までとは異なる切り口からの研究も進めています。

助手になってからは当然のごとく、修士とは異なり、研究以外にも時間を割かなければいけなく、自分の時間は減ります。しかし、業務の時間からも学ぶことは多々あり、何より他の場所にいたら経験できないことが多くあるため、私にとっては大切な時間です。好きな研究を不自由なく続けられる喜びを感じ、感謝をしつつ、助手の立場でしか味わえない一つ一つの経験を大切に、三年間を過ごしたいと思いません。

地方本部だより

東海地方本部だより



東海地方本部では、去る5月22日(月)に東桜会館にて平成29年度の総会を開催いたしました。EWE本部より堀越 佳治会長をお招きし、地方本部からは17名の会員にお集まりいただきました。

総会は、竹尾 聡本部長(S49電)の開会挨拶に始まり、堀越 佳治会長よりご挨拶をいただきました。ご挨拶の中で、堀越会長から、早稲田電気工学会EWEの活動や工事後の中庭の様子、東京都市大学との共同大学院である共同原子力専攻についてご紹介いただき、歓談へと移りました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行った後、下村様(S63電)の閉会挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。

ご出席賜りました堀越会長、ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様に厚く御礼申し上げます。

東海地方本部では、今後も定期的に総会を開催し、企業や世代の枠を超えて交流を深めていきたいと考えております。電気を学んだ者同士、近況報告や思い出話に花を咲かせるのは楽しいものです。東海地方にお住まいの方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。

クラス会だより

電通科 37 年度卒 2016 年度クラス会報告

2017 年 3 月 4 日（土）富永先生が理事長をされている電磁応用研究所にて開催いたしました。（出席者 25 名 欠席連絡 24 名 返事なし 7 名 連絡不能 3 名）

最初にこの 1 年間にご逝去された根岸哲さん・田辺道弘さんを偲び黙祷を捧げました。開催挨拶は富永先生より電磁応用研究所の紹介も兼ねてお話があり、その後懇親会の乾杯は当日最初に来られた難波さんをお願いし懇親に移りました。

近況報告では欠席者の状況について幹事より報告し、その後、濱本さんから三木さんの EWE 活性化での活躍、春木さんご夫婦の句集の紹介等がありそれぞれ三木さん、春木さんからコメントを頂きました。



長森さんからは EWE の活性化に関しての東芝下村さんについて紹介がありました。松井さんからは C 型肝炎の治療に関する最新の治療方法が紹介されました。ゴルフの活動については梅田さん・吉川さんから当日の写真等紹介されて報告がありました。

最後は少し手間取りましたが You Tube の早稲田大学校歌をバックに斉唱して解散となりました。

次回からの開催については日時（3 月第一週土曜日 13 時から）場所（電磁応用研究所）を定め都合の良い人が集まる事にして、メールによる連絡のみとし、出欠管理等は省略し一月前位にリマインドメールを幹事より出す事に対応はどうかと言う提案を幹事より行いました。次回幹事は東芝・日立 G です、宜しくお願いします。

皆様お疲れ様でした話題も病気に関する事が多くなりました。ご健康でお過ごしください。

2016 年度幹事

富永英義 稲尾勝三 長田喜久 小林新平 田中秀幸 三原種昭 吉川稔